

県研究主題

これからの生活を見通し、よりよい生活を創造するとともに、社会の変化に主体的に対応する能力や実践的な態度を育てる学習指導と評価の工夫・改善

提案 1

提案者 酒井 一敏（横浜地区）

〈研究主題〉 指導と評価の一体化を図る教材研究

「しっかり教え、しっかり引き出す指導」に向けた教材研究と授業実践

### 1 提案内容

本日の提案 D情報に関する技術「デジタル作品をつくろう」～修学旅行のCM～（第3学年）は、横浜市立学校の学習指導の理念「しっかり教え、しっかり引き出す指導」に基づき、教材研究（1目標 2子どもの実態 3評価規準 4指導計画と評価計画 5準備）と授業実践（6指導と評価の実際と工夫改善の実際）を明確に示し、「指導と評価の一体化」について深めていくことを方針としている。

#### （1）指導計画

D「情報に関する技術」は1年で「情報モラルを知ろう」（D(1)ウ）、2年で「情報ネットワークを知ろう」（D(1)アイ）を学習する。これらの取り組みをふまえ、3年前半に行う「ソフトウェアを使ってオリジナル作品を制作しよう」（D(2)アイ）のなかで今回の実践に取り組んだ。また、D(1)エ、D(3)アイについては、3年後半に「ロボットを動かそう」の中で学ぶ。

#### （2）「しっかり教え、しっかり引き出す指導」と評価

「題材目標」と「子どもの実態」をふまえ、「題材構想」を考える。これに基づき「『デジタル作品をつくろう』における『しっかり教え、しっかり引き出す指導』について」を具体的に考える。この内容と評価のリンクをしっかりと考え、「指導と評価の一体化」をめざしたことが今回の実践のポイントである。例えば「しっかり教える」内容の1つに「多様なメディアを複合して一元化することができ、表現や発信が簡単にできることを教える」を挙げたが、これは「評価計画」で知識・理解が「十分に満足できる」場合の評価規準である「多様なメディアの特徴と利用方法について調べ、素材をデジタル化して一元的に利用している例を挙げわかりやすく指摘できる」とリンクしている。他の評価項目についても、指導内容と評価のリンクを熟慮した。

さらに授業後には「評価規準の設定と観点別学習状況の実際」として、現状・課題・工夫と改善について分析し、次の単元や次年度の実践をさらに充実したものにしようとしている。

#### （3）指導と評価の一体化について

3年間の指導計画は、めざす子どもの姿、子どもの実態をふまえ、育てたい能力や資質を明らかにし、意図的に立案すべきものである。そのためにはまず、指導内容をしっかりと分析し、必要な評価規準をもれなく書き出し、評価計画を作成することが大切である。そして、実施に当たっては、指導内容と評価の整合性を確認しなければならない。評価は、子どもにとっては学習への動機づけ、教師自身にとっては授業改善、保護者にとっては子どもの学習進度の把握につながるものであり、信頼性の高いものにしていきたい。

また、実際の授業は時間が限られるので、評価に当たっては、日常的指導改善のための評価と、実際に記録する評価を分け、効果的・効率的に行っていきたい。

## 2 協議内容

### (1) 新学習指導要領に沿った年間指導計画・評価計画の作成

#### ①「生物育成に関する技術」について

- ・評価が難しい。また、どのような題材が指導計画が立てやすいか。…トマトは1本立てなどで栽培管理の状況が見取りやすく、植え付けを早めにするれば夏休み前に収穫でき栽培計画が立てやすい。
- ・時間の確保…「エネルギー変換に関する技術」などと並行して履修しているケースが多い。ワークシートの工夫などで時間を効率的に使っている事例も多く見られる。
- ・課題…最終的なまとめをどのように行うのか。本格的な作物栽培を通して多くを学ばせたいが、場所が確保できない、等

#### ②「情報に関する技術について」

- ・制御学習に関しての課題…教材についてまだまだ研究の余地がある。
- ・入学してきた生徒のスキルに差がある…新指導要領ではスキル学習の場が減ってしまった。1年総合的な学習の時間で「コンピュータ利用の基礎」を学習し、スキルを揃えた事例もある。

### (2) 言語活動の充実について

- ・図などを読める・かける力は技術科における大切な言語能力である。また図・映像などと一緒に、言葉で自分の考えを相手に伝える能力も、技術科で身につけさせたい力の一つである。
- ・工具の使い方を話し合いで解決する実践を、年間計画の中で焦点化して行い効果があった。

## 3 まとめ

- (1) 本日の発表は特に、「評価の実際」を勇気をもって公表している点がすばらしい。また、評価規準の中に「ユニバーサルデザインの観点」などが組み込まれ、子どもに身につけさせたいことと評価の関連がよく研究されている。

子どもに身につけさせたいことを考えると、課題解決学習や言語活動を通じた活動をぜひ行わせたいが、時間を要する学習である。それだけにどこで何をやるか、3年間を見通した年間計画を、より一層熟考していただきたい。

本日の横浜の発表のように、優れた指導事例や研究成果がたくさんある。ぜひ目を通し、授業実践の充実に活かしていただいたい。

- (2) 新学習指導要領完全実施1年目にあたる今回の教育課程研究会には、政令指定都市も含め各地区の代表に集まっていた。参加者の顔ぶれを見ると若い方々が多い。皆様方若いメンバーに今後の技術・家庭科教育を担って欲しいという願いで代表に選ばれていることを自覚していただきたい。今回の横浜地区の取り組みは「評価に対して正しく捉えている」という点でとても優れている。多くの学校の参考になるはずであるので、ぜひ各地区のみなさんに内容を伝えて欲しい。

技術科の評価にあたって“合理的な” “よりよく” など表現をどのようにとらえたらよいか、具体化のヒントは「子どもがどのようになってくれればよいか」から考えることにある。また、「情報に関する技術」の“社会的”を理解するキーワードとしては「ユニバーサルデザイン」や情報の「信憑性」「セキュリティ」などが挙げられる。また「サブリミナル効果」など情報特有の知識についても私たち自身が理解を深めていく必要がある。

## 〈研究主題〉

言語活動を通して、生活を工夫し改善する力を育むための学習活動

## 1 提案内容

言語活動を通して授業を展開することで、一人では見えなかった生活をよくするための工夫が見えてくると考える。いろいろな場面で、グループ活動を行うことで、言語活動を活発にし、家庭分野の目標の「生活をよりよくしようとする能力と態度」の育成を図りたいと考えた。

## (1) 実践に向けた手だて

①「消費生活と環境」と「住生活」のように他領域とのかかわりを持たせることで、自分の生活に結びついた課題を解決できるように継続性を持たせることも必要だと考えた。

②家庭分野で扱うミシンを、技術分野の「力の伝道の仕組み」の部分と関連させて指導する。ミシンという身近な機械を題材に設定することで、修復する道具であることを再認識させることによって、身近なごみを減らし、環境への影響を考え、生活を豊かにするためのきっかけにしようと考えた。

③言語活動の一つとして、グループ活動を行うことで、自分の意見を出すことや他の意見を聞くことの力が育まれ、思考力・判断力・表現力が養われると考えた。

## (2) 研究の内容

①題材 「環境に配慮した消費生活を工夫しよう」

②題材のねらい

身近にある布製品・不用品を使って、環境に配慮した製作品を考えることができる。

個からグループへと考えを広げ、さらにより良い製作品にする。

## (3) 研究の成果と課題

① 研究の成果

この題材設定のために、グループでの活動を中心とした学習を何度か行ってきた。個人からグループへという流れをいろいろな場面で取り入れるようにしたことで、教師の指示がなくても、生徒が主体的に意見交換を行えるようになったことは、言語活動の成果ととらえることができる。他の生徒の感想にも、生活をよくしようとする前向きな感想が多かった。

技術科の教員としての視点でミシンを題材として取り扱えた事で、身近な機械に興味を持たせるという面で成功であった。また、ミシンが壊れても、ミシンを分解して直してみようとする姿も見られ、環境に配慮した生活を送ろうとする力にもつながった。

② 研究の課題

個人からグループへという流れはできていたが、クラスで発表することは、経験不足もあり課題も残ったため、今後は発表の場を多く取り入れることで、解消していきたい。

技術分野と家庭分野の他領域などとの関連を図った、より良い教材を開発していくことが求められる。

## 2 協議内容

### (1) 新学習指導要領に沿った年間計画の作成について

「幼児とのふれあい」は、できることから始める事が大切である。園児に中学校に来てもらって交流したり、職場体験での園の様子をビデオにとって見せたり、保育士さんの講話を実施している中学校もあった。幼稚園や保育園とは、運動会や芋堀りなど日常のかかわりがあると保育実習しやすい。技術科教員と協力し、事後指導としてまとめ学習を技術のPCで行った事例報告もあった。ただ、園の受け入れ体制の課題も残った。

「生活の課題と実践」として、幼児のおもちゃ製作、1食分の献立を立てて家で作ってみる、夏休みの宿題として洗濯の実習の実践報告があった。

### (2) 言語活動の充実について

題材の工夫が必要であり、1つの作品を2人で製作する事で、質問しやすくなる。また、グループでの話し合いで改善・工夫でき、お互いのアドバイスは効果的である。伝えたい思いがあれば、話せるし、言語活動の充実には、消費生活は有効である。葉大根を栽培し、絵日記とレポート作成し、七草粥の調理実習を行った。今後、文化祭でレポート展示をし、見た人に付箋に感想を書いてもらうことが生徒の励みとなるという実践報告があった。言語活動の評価が難しいという意見も出た。

## 3 まとめ

### (1) 3年間を見通した指導計画、評価計画の作成と学習指導の工夫について

まずは生徒の実態を把握し、技術科教員と連携し、相互の有機的な関連が必要である。系統的・総合的な学習の展開には、全県の情報を共有し、指導者の期待感が伝わるような取り組みをすることが技術・家庭科の活性化につながる。実感を伴った理解を深める実践的・体験的な学習活動として、例えば、調理実習では、なぜこのように切るのか？材料の厚さと加熱時間との関係や効率的で安全か考えさせ、その操作の科学性に気付くような学習を積み重ねることによって考える力が育ち、生活の場面で応用できる知識や技術が身に付く。学習した知識・技術を活用する問題解決的な学習として、生徒自身が実践して新たな課題がもてる授業に取り組む必要がある。言語活動の充実には、技術・家庭科の目標を達成するための能力を、言語活動を通して育成するものであり、言語活動を行うこと自体が目的ではない。

### (2) 指導と評価の一体化・評価方法等の工夫による授業改善について

評価は、成績をつけるためだけでなく、次の指導の改善や個に応じた指導の工夫につながるものであり、信頼性と妥当性のある目標に準拠した評価とするために、評価について事前に生徒に説明する必要がある。生徒が行う自己評価や相互評価との関連を図り、個に応じた指導をする。欠席者や不登校の生徒にはもう一回チャンスを与え、生徒たちが家庭科が面白いと思い、学習意欲を高めるために何ができるか考えていく。評価した結果を、学習指導の改善に生かしていくことが重要である。

### (3) 各教科等や小学校との関連を図った取組について

国語・社会・理科・保健体育との関連を図ることと小学校の家庭科で、生徒たちがどんな内容の学習をしたのかを調査する必要がある。